



ひなどり

園だより 4月号
平成31年4月4日
新潟市立新津第三幼稚園



「子ども時代」を温かく見守るゆとり



園長 間嶋 哲

今から約20年前のことです。私はたった1度だけ、小学校1年生を担当したことがあります。算数がとても苦手な男の子に、「5ひく2」を必死に教えていました。その子は、「 $5 - 2 = 3$ 」が、どうしても理解できないのです。

彼の前に、5個の学習用おはじきを出します。そして、「ここから2個取るからね。よく見ていてね」と前置きし、「さあて、残ったおはじきは、いくつ?」と聞いても、「5個」と答えるのです。「どうして?」と聞くと、「だって2個、先生が隠しているだけじゃない」と。確かに私の右手には、取った2個のおはじきが握られています。何度やっても、この調子です。当時の私は、ほとんど困りました。

ある日、ビスケットを用意し、同じことをしました。ただ1つ違っていたのは、2個のビスケットを二人で1つずつ食べたこと。すると、「2個食べちゃったから、もう3個しか残っていない」と言ってくれたのです。「 $5 - 2 = 3$ 」が目に見える形になり、納得してもらった瞬間でした。

大人から見れば、単なる「 $5 - 2 = 3$ 」のひき算でしかありません。さらに言えば、ほとんどの小学校1年生にとって、難なくクリアできるレベルなのでしょう。しかし、彼には彼なりの論理があり、食べることで目の前からなくなったという事実によって、不思議な納得が得られたのです。

「子どもは、小さな大人ではない」

この言葉は、フランスの哲学者であるジャン＝ジャック・ルソーの言葉です。ルソーは「子どもの発見者」と呼ばれています。

子どもたちは、大人とは全く違う時代を生きています。私たちだって、かつてはそういう時代を生きてきました。何ものにも代え難い「子ども時代」に、正面から寄り添っていける保護者の皆さんや私たち教職員は、あらためて幸せだなあと感じます。

かつての私が「5ひく2」の指導をとことん悩んだように、子どもの教育について何らかの悩みを持つことは、当然のようにやってきます。その時こそ、子どもの言葉に耳を傾け、温かく見守るゆとりを持ちたいものです。そして、子育ての悩みを共有させていただき、少しでも解消できるようにお手伝いさせていただきたいと思います。

2019年度がスタートしました。新しい時代である「令和元年」が、あと一か月で始まります。64名（来週入園する年少組を含む）の「子ども時代」に、私たち教職員が価値あるものを提供していけるよう、今年度もみんなで力を合わせていきます。どうぞ、よろしくをお願いします。

